

令和元年度 第1回徳島県文化創造審議会 議事録

I 日 時

令和元年6月11日（火）午後4時00分から午後5時30分まで

II 場 所

徳島グランヴィリオホテル1階 ヴィリオルーム

III 出席者

【委 員】20名中16名出席

桐野豊会長、青山佳裕委員、阿部曜子委員、有内則子委員、大井美弥子委員、大石雅章委員、久次米順子委員、佐藤勉委員、鈴木アヤ子委員、板東久美委員、藤原牧子委員、森恵子委員、山下徹委員、大和あゆみ委員、結城栄子委員、四十宮隆志委員

【徳島県】

板東安彦県民環境部長、上田輝明県民環境部スポーツ・文化局長、加藤幸一県民文化課長、木野内敦文化資源活用課長、ほか

IV 次 第

1 開会

2 議事

(1)「徳島県文化芸術推進基本計画（仮称）」の答申案について

(2) その他

3 閉会

V 議事の概要

事務局

議事1の資料について説明

会長

各委員におかれては、この計画案に対する御意見、御提言をいただきたいと思えます。

委員

よろしく申し上げます。私、この回が初めてになりまして、審議の経緯等十分にわかってはいないんですけど、昨年度、近畿高等学校総合文化祭徳島大会というのが高校の分野でありまして、ここにあるようにあわ文化4大モチーフっていうことで、総合開会式のデモンストレーションのテーマが、阿波藍、阿波おどり、阿波人形浄瑠璃、それからベートーヴェンの第九だったんですけども、今年度は京都でその大会

があるんですが、5月の企画委員会で、京都は文化遺産が非常に多くて、逆に焦点が絞れていないことが課題であり、徳島に関しては、阿波藍、阿波おどりと、ものすごく焦点が絞られて、よく分かった、ということだったんです。

5の全部追加のところに書いていただいている分については、非常に焦点が絞れるという感じがしまして、私としては、県民のみなさんから見ても、それから他県の方の目に映ることがあっても、徳島の特徴を出しているということで、非常にいいという感じがしています。

ですからこの、5番の全部追加の部分に関して、非常にありがたいという感想を持っております。以上です。

委員

前回との変化のところが赤でということで、前回からの情勢の変化といえば日本遺産に徳島の阿波藍が認定されたこととかを取り入れられたり、G20もあって、関西への注目がこれから万博もあるということで、17ページのように関西広域連合として、などは、その時期その時期、新しくフレキシブルに取り入れられているんだなという印象を受けました。

前回のときにも言ったんですけど、四国という枠で見た時に、瀬戸内海、瀬戸内側、愛媛とか香川が世界的に、インバウンドが増えているということがあって、やっぱり世界に向けて徳島、あわ文化を発信するにはどうするか、という戦略的なものも必要だと思いますので、それはいい方法かなというふうに思います。

一つ質問させていただきたいんですけども、ブランド創出の場に、うちの大学も新しくしてるんですけど、言葉といいますか、キャプション、それが12ページの「未知なる世界！道成るあわ文化」という言葉を、効果のあるキャッチフレーズとして、これを全面に出されるというお考えなんですか。

事務局

はい、おっしゃるとおりです。この二つの意味をこめたキャッチフレーズといいますか、コンセプトで推進したいと考えております。

委員

そうすると、これを戦略的に、前面に出すのであれば、封筒とか、いろいろなところにこれを書いたりとか、いろいろなところで出されるのですか。

事務局

そうですね、封筒にするかどうかは未定ですが、計画を周知する時の、そういった資料の中では用いたい、まあ目立つようになると思うんですが、そういうふうに考えております。

委員

何度も何度も、いろんなところで繰り返し出さないと、なかなか定着はしないと思

いますので、ちょっとお聞きしてみました。以上です。

委員

前回ちょっとお休みさせていただいております、うまく理解できていないかもしれないなくて申し訳ないんですけど、18ページで、指標・数値目標の設定っていうのがしっかりなされているところで、私も藍染めをやっていて、藍染めを中心に団体とかでも教えていたりするんですけど、共通して使えるような映像の素材っていうのが、なかなかありませんので、19ページのところに「あわ文化の映像の効果的な活用」というのが挙げられておりますので、ぜひ教育機関であったり、観光の面であったりとか、各年代に応じたような教材になるような映像が作られると、とても助かるかなあ、と思います。

各団体さんが、少し短い映像ですとか、自分たちで作ってるようなものがあるんですけど、県全体の歴史から通して作っているようなビデオや映像記録はありませんので、その辺のところに期待したいと思います。

委員

失礼します。前回私も欠席させていただいたので、今日これを目を通して立派なものが出来たと。基本計画に基づいて18ページにその具体的な指標、数値目標というのがあるのでわかりやすいな、というふうに今見ていました。

で、この中で私も初めて知ったことがたくさんあって、数値目標のページに中学生ワークショップとか、ちびっこ、あわっこ、ちょっとどこか忘れたんですけど、なんとか文化大使。こういうのしてるんだっていうのを初めて知ったんですけども、今、合唱連盟で私活動しているんですが、合唱連盟ではとにかく若い世代を揃えてないとこれからはないっていう急務になってまして、平成29年度から、それまでは中学校、高校、大学、一般だけの加盟だったんですけど、とにかく小学生を取り込もうと。

小学生は無料でいろんなものに参加していただいて、音楽に触れてもらうっていうことが1つと、小学生が参加してくれたらもれなく親がついてくるので、若い保護者世代を例えばこっちに取り込んでいけたら、ずいぶん裾野が広がるのではないかと、若い世代が入ってくれるのではないかとということを取り組んでまして、29年から小学校の加盟を進めています。

で、やはりその効果が表れてきて、中学生、高校生がだんだん活気づいてきたなっていうのを感じているところです。ここに中学生ワークショップとかあるんですけども、これはもっと下の世代ということは考えられてはないんでしょうか。もし、そういった取り組みをされてるんでしたら、教えていただきたいと思います。

事務局

ご質問ありがとうございます。この中学生ワークショップにつきましては教育委員会の方の事業になっているんですが、今年度実施予定ということで、補正予算の方で検討している内容ということでございまして、ちょっとまだ時期的に具体的に申し上げられない部分があり、御了承いただければと思います。

委員

今年からですか。

事務局

はい。

委員

このように取りまとめていただきましてどうもありがとうございます。非常にまとまって提示されています。歴史分野の立場から、遍路文化やあわ文化を活用した文化創造において、埋蔵文化財センターなどの活動が指標に採り上げられたことは重要だと思います。徳島県には、若杉山遺跡とか多くの埋蔵文化財が語る豊かな文化がありますが、情報発信が十分できていません。それをいかに保存・活用していくのか。

その点で、クラウドファンディングが有効だと考えます。四国遍路でも、クラウドファンディングを使って道の修復などを行っています。クラウドファンディングは、資金を頂くだけでなく、広く関心を持つ層を作り上げていくということだろうと思うのです。やはり発信が非常に大事で、県民が支え合い、そしてそれが大きな力となって広域へと広がっていくんだらうと思います。

以前、石見の銀山においても地域の人々がみんなでその文化財を保存していく関係者になって、協力し、大きな活動となって海外からも人を集めていると、テレビの報道がありました。やはり地域の人々にいかに意識を持っていただいて、文化を高めていただく、さらに自分たちも主人公として参加していただく、そのような文化創造力、発信力というのは非常に大事だなと思います。

そのへんを充実させ、そうすれば関西広域連合、さらに日本が世界へと向かって強い歩みができると思います。今後県民も含めての発信というか、そういう参加型の文化活動へと結びつけていくように発信の方を十分にお願ひしたい。よくまとめていただいてありがとうございます。

事務局

少しだけ、説明の方させていただきます。クラウドファンディングのところ、御質問といたしますか、御紹介といたしますか、御意見頂きましたので。

実は私、去年の四国遍路の世界遺産登録の担当をさせていただいておりました、そのとき初めて、そういったクラウドファンディングで全国から寄付を頂いてそれを地元の活動の方に助成をして、地元の住民の団体の方々の活動支援をできたというのは非常に大きな効果があったのかなと。

一つには、そういった意味でも発信ができたということはございますし、なかなかそういった遍路道でも過疎地の中で地元で活動いただく団体の方もご苦労も多いというところで、そういった地元の活動を全国からの寄付で支援ができたということは非常に大きな点だったかと思ひます。

今後、発信という意味でいくとそういったHPのクラウドファンディングによる発信とか、さきほど藍の方でもご意見いただいたような、映像系でより遠くに離れたと

ころからでも身近に感じれるような、そういった映像を新技術でVRといいますけれども、バーチャルで見えたりするものもございますので、そういったコンテンツも使いながら発信のほう頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。

委員

私も前回休ませていただいております、ちょっとわかってない所もあるかと思うんですけども、計画を見て感じたことをちょっと挙げさせていただきます。

施策の展開とかでありますとか、分野に分かれて丁寧にわかりやすい言葉で非常に表現していただいております、とても一般の方が見てもわかるようないい計画になったことと思っております。ちょっと文化的な知識があまりないので、そういう方面ではちょっとなかなか評価ができませんので、そういう形式というか、形でわかりやすい感じでみなさんに見てもらえるような形式にまとまっているのではないかな、と思っております。

あの、最近「eスポーツ」とかよく呼ばれているんですけど、これってちょっとスポーツなのか文化なのかっていうところ、いろいろ議論があると思っております、今回文化の方にeスポーツっていうのが入っているっていうことで、県の方はそういう考えということよろしいですか。ちょっと私、前回いなかったもので、そういう説明があったのかどうかわからないんですけども。

事務局

御質問のeスポーツの関係、二面性あると思います。当然スポーツというからには、いわゆる競技をしていくという意味でのスポーツ的な要素と、あとやはり新たな価値を見だしていくというところで文化的な要素があるかというところで、スポーツ・文化局の中に文化とスポーツ両方担当課ございますので、今、共通の担当ということで二課で連携してやっているところでございます。

今、文化でやっているという意味での新たな価値を見だして、パブリックコメントの3番にありますように徳島県の老若男女が参加できるスポーツ大会、文化的な捉え方ということもあると思うんですけども、これはeスポーツであれば、例えば小学生の方でも参加できたりとか、お年寄りも子供と一緒に参加できたりというところで、是非スポーツも含めて文化としても取り組んでいきたいという意思でございます。

委員

ありがとうございます。両面あるということですかね。徳島市の方でもこれってどこに該当するのかなとよく話題になっておりますので、ちょっとお聞きしました。ありがとうございました。

委員

私も他の委員さんがおっしゃっていた通りなんで、非常に様々な視点からですね、基本計画を作成していただいて、大変よくまとめられているなという感想です。

特に文化芸術を取り巻く環境というのは非常に変化をしております中で、前回は申し上げたと思うんですけども、この社会包摂機能っていうのが、しっかりとですね、この共生社会の実現に向けてという中に文言を入れていただいておりますし、そういう理念がしっかり入ってきたので、大変ありがたいなというふうに思っております。

また、施策展開の中でも、文化振興財団としても様々な県民の皆様方のニーズに応じてですね、事業を展開していくわけなんですけど、特にここでしっかりと、県の指導も受けながら、県と連携して人材を育てていくということで、こちらの方にしっかりとその我々としての役割も明記していただいておりますので、大変ありがたいと思っております。今後ともどうかひとつよろしくお願いを申し上げます。

委員

皆さんもおっしゃられましたように、私も見事に計画をまとめられたと感心しております。そして私自身がこの企画を県内の人や県外の人達にアピールするときはどうしゃべったらいいかということは今、考えております。そういう時にわからないところがちょっとありますので質問させていただきたいと思っております。

まず、6ページの藍が日本遺産に認定された。これは今までのこの委員会になかった一番素晴らしい追加の部分だろうと思っております。そして今までの藍を、徳島の阿波の藍をアピールしていましたが、日本遺産に認定されたということに対して今までとどう違うメリットがあるのか、またどうそれをこれから生かしていくことができるのかということをお聞きしたいと思っております。

事務局

文化資源活用課長の木野内でございます。日本遺産に阿波藍が認定されて、そのメリットとこれをどのように生かしていくかというご質問でございました。まず日本遺産に認定されると、やはり1番のメリットとしては、知名度といいますか、日本全国に向けてストーリーを発信できる点があります。日本遺産につきましては資産もそうですけれども、この文化財と文化、それを組み合わせたストーリーを認めていただいたということで、徳島が持つ貴重な文化が日本の中でも認められたということで、発信力という点では非常にありがたい点であろうと思っております。

もう一点は、9市町の方で連携して取り組むようになりますので、具体的な推進の施策については9市町の方でこれから具体的にまたさらに練られると聞いておるんですけども、具体的な情報発信のために、国の方から、支援のための予算の方も今後ついてまいりますので、それを活用した形で情報発信でありますとか、文化を継承するためのいろいろな施策を、9市町で協議会を立ち上げて、その中で具体的に検討されるということで、阿波藍の発信、それと継承につながるものと期待しております。

委員

ありがとうございます。次にこの大きなキャッチコピーですね。12ページにありますけど、この枠で囲った「未知なる」世界へ！道成る「あわ文化」ってございました。私、この書類の書き方、こういう書類の書き方わからなくて、私はもう原稿の書き

方しかわからないんですけど、原稿の場合はこの感嘆符っていいですか、この印がついたり、クエスチョンがついたあとは1マス空けるっていう決まりがあるんです。こういう横書きの時は空けないんですか。

事務局

区切りとしては、おっしゃるように、前段部分と後段部分の対比ということでいくと、1マス空けた方がわかりやすいと思いますので、後で修正をしたいと思います。

委員

すいません。余分なことで、それともう1カ所、それに似たことがありまして。点々がある箇所、例えば11ページの「茶道、華道、書道(香道)・・・日本の文化、伝統文化を象徴して」ってありますよね。それからもうひとつ、2つ点がある所もありました。ちょっとどこか忘れたんですけども。点をつける場合は1マスに3つってというのが決まりなんです。原稿の場合はですよ。この場合は知らないんですけども。

事務局

2つをつないでただけであれば、間は句読点の方がよろしいですね。

委員

線でもいいんですけども、点の場合は常に1マス3つってというのがありますので、ちょっと抵抗がありました。

事務局

「茶道、華道、書道(香道)・・・」というのは、他にもありますっていう意味での「・・・」ですので、ちょっと表記の方も検討します。

委員

そうですね。すいません。

それから、未知なるあわ文化の「未知なる」ってなに、って言われた時に、一言でどう説明したらよろしいでしょうか。

事務局

今までにない、まだ知られてない、という言葉の意味のとおりでいきますと、新たな文化を創造していく、ということになります。

委員

新たな文化の道をつくっていくっていうんですか。

事務局

両方ございます。新たな文化を目指して「未知なる」世界、また、新たな文化を創

造してそれを進めていくという意味での「道が成っていく」と。

委員

道が成る、それが道に成っていくと。はい。わかりました。

それから18ページで、2つめの2番、文化アドバイザーの派遣回数ってありますが、文化アドバイザーっていうのはどちらからのどういう方のことですか。

事務局

県の事業でやっておりまして、例えば地域でいろんな文化活動されておられる方々のところに、もっとこううまく発信すれば広がる、いわゆる、PRとか広報のところが多分なノウハウがない場合に、そういった発信ができるような専門家を派遣するなどです。

委員

専門家ってどんな専門家なんですか。

事務局

一例ですが、広告代理店、広告の関係のお仕事をされておられるような方です。

委員

それは県に依頼したら派遣してくれるんですか。どこに依頼するんですか。

事務局

今、委員の方からお問合せありました件につきまして、文化アドバイザーと申しますと、実は昨年度から「あわ文化創造アドバイザー事業」というような形で県内の市町村ですとか文化団体の方にアドバイザーの方を派遣しております。

で、具体的に申しますと、昨年度の内容としては今、加藤課長からお話ありましたように広報の専門家、あともう一方は昨年度の場合、県出身の音楽家であります住友紀人さん、この2名をアドバイザーとしてたてて、県内から是非うちの団体と一緒に解決策を考えてみたいということを手を挙げていただいて実施したものであります。

1つ広報につきましては、例えば人形浄瑠璃の団体、あと新しい事業に取り組む市町村等と一緒にそれぞれ内部の解決をしていって広報の戦略を立てたりいたしました。

住友紀人さんにつきましては昨年度海外の団体と交流を深めたいというような文化団体の方から参加いただいて、その交流を記念したオリジナルの曲を作曲して、3月に成果発表をしたというようなことをしております。この事業を今後も継続していって、新しい一歩を市町村や文化団体の方と踏み出していきたいというのがこの項目にあてはまっております。

委員

ありがとうございました。素晴らしいと思います。次に19ページの「徳島ファン」

の活用で、先ほどもありましたが、クラウドファンディングの活用ということで1件以上になっておりますが、具体的にこれからこういうことがあればいいというような案はございますか。

事務局

クラウドファンディングの活用についてですけれども、今年度予定しておりますのは、昨年度と同様に、遍路道の整備等を県内全域に広げたいと考えています。それと外国人の遍路さんが非常に増えておりますので、そういう方たちにより安心して遍路をしていただけるように、Wi-Fiのポイント設置等を行い、より安心して遍路できる、それと情報発信、その2点が出来るようなWi-Fiポイント設置というのも考えております。

委員

はい、わかりました。それから、3番にあります 徳島の文化資源や歴史・伝統をテーマとした旅行企画ってございます。これはどういう対象の旅行なんですか。一般の県民が参加できるんですか。

事務局

今、ご質問の旅行の企画ということで、先ほどもちょうどありました藍の関係とかですね、ちょうど日本遺産にも認定されたというところで、特に観光部局と連携しまして、広く、国外もしくは海外からも来ていただけるような、例えば旅行会社が立てるといだけの企画ではなくて、広く広報して提案した内容に賛同いただいて多くの観光客の方々が来ていただけるような、そういった取り組みをしたいと考えております。

委員

そうですね。全然関係ないけど、今、阿波市がガーデニングの何カ所か回れるっていうバスでやってますよね。あんなふうに、日本の藍の日本遺産になったっていう所をこう巡っていけるような、そういうツアーとかしてくださったら、県外の人を招待したときにとってもありがたいなと思うんですけど、そういう願いはどちらにしたらいいんですか。

事務局

この場でも頂きましたし、それは当然観光部局にもお伝えしますし、先ほども言いましたように9市町でも阿波藍、ストーリーだてて認定されておりますので、要素としては、藍だけでなく阿波踊りも入ってきますし、人形浄瑠璃も入ってくるというところで、ストーリーを巡れるような、そういったものができればと思っています。

委員

それらを徳島県の観光っていう、ネットで索引したときにぱっと出てきて、みんなこう飛びつくような、そういうふうにしたら日本遺産も生きてくるし、ここの旅行っ

ていうのがあから、とてもありがたいなと思いました。すみません。たくさん喋りました。

委員

皆さんお話を聞いてると、なんかだんだん、もわっとしてきて何を言えばいいのかが薄れてきたんですが、本当によくいろんなプランニングで実際もう動き始めている企画というか、あると思うんですけども、これを1年、2年、3年、5年って続けていったときに、同じことの繰り返しではやっぱり飽きてくると思うんです。

例えば第九にしても、ドイツから留学生が来てやりました。じゃあ次は、じゃあ次はっていうふうに。なんでそういうふうに思ったかという、パブリックコメントの1番上に「徳島県・県民文化課が瀬戸内国際芸術祭のような徳島県内での国際的な芸術祭の開催を行う」というご意見があったんですけど、この「国際的」というワードを見たときに、どうしても、私たち音楽やってるんですけど、欧米のイメージしかないんですね。

さっき伊澤さんおっしゃったように、クラウドファンディングでお金を集めてコンサート、文化アドバイザーの住友さんに助けていただいたコンサートは、メキシコの子供達 came。で、韓国とか欧米以外の国も視野に入れて、近いですし、なんかそういう取組みっていうんですかね。ちょっと視野をもっといろんな、ミャンマーでもどこでもいいんですけど、違うところにも視野に持って行って、ものすごい面白い交流が出来ると思うんです。

で、それが音楽だけじゃなくって、例えば今すごく藍染めが、私の周りだけかもしれないんですけど、すごく人気が出てきました。韓国から友人から来ても、今、BUAISOUさんでしたっけ、ロンドンでワークショップしたりして。そこに行きたいんだけど行き方が、徳島の上板の人に聞いても、「BUAISOUさんあるわー」とって、そこで止まってしまいうんです。コンタクトがとれないというか。まあ実際お忙しいので、申し込んでも別のところ紹介してくれたり。

徳島県民自体が、今、世界的に注目されている藍染めのやってることに興味を持って参加出来ない、しづらいというか。もちろんBUAISOUさんもそんなにパブリックには、自分達の活動が1番だと思うので出来ないのですが、敷居がちょっと、はしごがかかってない気がするんです。

東京からの情報で、トリーバーチ (Tory Burch) っていうブランドがあるんですけど、その銀座のお店は藍染めのワンピースが掛かって、1着、値段見たら10何万もするんです。とってもいいんですけど、おばあちゃんが着てたあっぱっぱーを思い出して、すごい、こんなものがこんなにもてはやされるんだと。反対に、ざまあみろみたいな感じをすごく感じました。

だから、もちろん徳島に住んでるので、徳島大好きなので、いろんな素敵なものが見られるんですけど、本当に藍染めひとつにしても県外から来た大学生は体験したこともなければ、何ですか、みたいな感じが多いんですね。

小学校からずっといると必ず1回や2回はしていると思うんですけど、そういうセンスが育ってきた時点で出会うのと、ちっちゃい頃からあるわっていうのでは陶芸の

絵付けにしてもまた変わってくるので。もうちょっとこう、県がこんなところ行ったらこんな、さっきのお話と重なるんですけど、道を徳島県民に作っていただくと、いつも言うんですけど、徳島の人が、県外から来た人にもっとこんなのがあるよ、っていうのが言いやすいかなと。

BUAISOUに行きたいんだけどって言われて初めて検索して、っていうんでは、ちょっと手遅れなことがよくあったので、それを知らないっていうのがすごく残念なことが、何回か韓国からお客さん来てるのに行けなかったとかっていうのもありましたし、藍染めひとつにしても、もちろん韓国にも他の国にも同じようなことがあるので、点でありますよね、阿波踊りだったら阿波踊りのような大きなものの関連、点で関連していったら何かイベントをしていくと、それはそれでやってる人達が飽きないで、もっと見えるんじゃないかなって。

メキシコの子達を見たときに、まさかあの亀をくり抜いて太鼓にして鹿の角で叩かれた時には、思わず中を覗いてしまったんですけど。その辺に歩いている亀なんですよ。それが楽器になってますし、打楽器1つにしても、そういうものが一緒に楽しめると思うし。

さっき委員さんがおっしゃったんですけど、人って自分が主役になるとすごく輝けるんですよ。その象徴が阿波踊りだと思うんです。それまで八百屋でお野菜を売ってる人がいきなりスターになるわけじゃないですか。そういうのが徳島県民が1人1人がそういう機会があると、より徳島が好きになるので、もう1回掘り起こしているのかなことを考えられるんじゃないかと思いました。

それと文化財に関しても、お隣の香川県が衆鱗図という江戸時代に書いた図録とか、素晴らしい魚ばかりなんですけど、持ってるんですね、藩が。きっとそのまま研究が進むと国宝になるだろうっていうのがあるので、徳島にも、もっと文化財が、西の方なんか、勾玉をちっちゃい頃投げて遊んでたとかいうおじいさんもいるので。庭に転がってたとか、なんか見たことあるとかいうのが、博物館にも置いてあるんよな、みたいなので。

きっと本当に気が付かない文化財とかがいっぱいまだ転がってて、それを足で蹴って遊んでいる県民がすごくたくさんいるので、そういうのを私たちが1人1人が注意して県の方にこれ面白いですよ、と意見をあげられるようなシステム、まあ、単に面白いことを探すだけの話なんですけど、そういうことが出来たらこれだけ企画があるので先々に繋がるんじゃないかなと思って、たくさんの方を見せさせていただきました。以上です。

委員

私はちょっとこの会が初めて参加になりました。きれいにきちんと把握出来てなくて申し訳ないんですけども、今回、赤い文字の部分が追加されたということで、特に10ページの基本的な方向性の中に、「次世代に継承することを前提としつつ」という言葉があります。私が今住んでいる町には、寄井座という人形浄瑠璃の座があるんですけども、そこは大変担い手不足に悩んでいると聞いております。

ですので、この、次世代に継承することを前提としつつ、ということが基本的な方

向性の中に明記されたことは、とても良いことだなというふうに感じました。また、19ページに映像の効果的活用というところがあるんですけども、神山町に農村舞台の襖からくりをデッサン化して映像化したものがございますので、もし「あわ文化」の1つとしてご活用いただける機会がございましたら、お声がけいただきたいと思います。以上です。

委員

今回、読ませていただいて本当によくまとまったし、付け加えていただいて非常にわかりやすくなったのではないかと思います。で、今回ちょっと、希望的観測ではないんですが、皆さん日本遺産日本遺産って、阿波藍とおっしゃってますが、一応構成団体の中には人形浄瑠璃も入っておりますので。ストーリーという事で、吉野川がもたらした繁栄が阿波藍を育み、また吉野川の氾濫にあっていい土が来たから阿波藍ができ、その繁栄によって人形浄瑠璃が栄えていった。

で、お金持ちの人が増えたので人形浄瑠璃それから義太夫節が非常に盛んになっていうことから、それが繋がって行って阿波踊りであったりとか他の文化遺産にも繋がったということで、そういうストーリーをもって今回の日本遺産に認定されたというふうに聞いておりますので、そのひとつの構成団体であるということで、藍を中心としたんですけども、その構成団体の中には人形浄瑠璃、また阿波踊り、そういうふうなものも含まれているっていうことも含めてPRしていただけたらと思います。

また、そういうのを実際感じていただけるのが、十郎兵衛屋敷と新町川を守る会と協力いたしまして、浄瑠璃クルーズっていうのをやっております。それが両国橋のたもとから船に乗って吉野川を渡り、吉野川の風を感じながら、十郎兵衛屋敷へ来ていただいて、藍染めの衣装を着た人形による「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」を観ていただいて、阿波の名産品を詰めましたお弁当を召し上がっていただいて、公共交通機関を使って藍染めを体験に行くという、ツーリズム協会と一緒にしまして、ストーリー性を持った旅行企画などもしております。

また先ほどおっしゃっていただいたデジタル襖からくりなんですけど、今日の徳新の読者の手紙に出ておりましたように、コスモホールで先日、映像を映させていただきました。今の予定ではこのデジタル襖からくり、うまいこといったら今年秋にフランスへ行けるかなと、いうふうなことも計画しております。ということで人形浄瑠璃も世界に向けて発信もしていけるような。

で、今年、アメリカから留学生が来たりとか、来週になったらローランド大学ですかね、美術大学の方が、阿波和紙伝統産業会館で漉いた和紙でつくったお人形で、十郎兵衛屋敷で人形芝居をしてみようとか、いろんな企画があったりとか、今、アメリカの大学から人形を作ってくれてと言われて制作に励んでいただいたりとか、いうふうなことで、なんとなく人形浄瑠璃に、最近ちょっとスポットが当たってきたかなということで非常に嬉しく思っております。

次世代の継承につきましても、去年、おとどしデビューいたしました小学生の太夫がいたんですけど、今年の4月から、文楽の方の本物の太夫になるということで弟子入りいたしまして、徳島からは離れてしまいましたが、今大阪で文楽の方で太夫目指し

て頑張っております。次にまた女の子ですけれど今、太夫デビューしようとして頑張っております。

そういうふうなことで、次世代の継承は非常に各人形座も地域でいろいろ教えたりとかしてますけれども、やっぱりそれが次に続かない。小学校、中学校は、まあいいんですけれども、高校になると、ある学校に限られてる。その上大学になるとまた少なくなる、就職して出て行ってしまうと、もう全く、それで終わりっていうことで、その途切れ途切れになるってというのが一番懸念してるところです。

城北高校の民芸部がまだ、ずっとOB達がいてOB達の人形座があって、大学出て帰ってきて入っていける場がある。こういうふうな状態にならないと、次の若い世代に引き継いでいくってというのが非常に。今、人形座って15~6、18ぐらいあるんですけれども、平均年齢が段々段々高くなって、これ私たちどうしようっていうのもあるし、中学校、高校でした人が地元の座に入っていて、ずっと世代交代が出来つつあるような座もあるし、っていうことで、非常に一番悩みどころですね。各団体そうだろうと思うんですけれども。

ですから、こういうふうな指標とか、目標値の中で次世代への継承というところでいろいろと各団体それぞれが頑張っていけるのであれば、非常に良い計画であろうというふうに思っております。

委員

私、1回目だけ出なくて2回目以降出させていただいて、かなり私ばかりしゃべっている状況多かったんですけど、いまだに「未知なる」は、知事の口癖なんで仕方がないんでしょうけれども、本当に文化に合っているのかなっていうのは思っております。だけど、読ましていただいて非常にまとまりつく形で着地さしていただいているなというふうに感じております。

その上でちょうど前回、いわゆる検証するために何が必要なんだ、というお話をさせていただいて、今回いわゆる数値目標とかを出していただくというお話で、見させていただいたんですけれども、確か前回も私、文化ってというのは金勘定で何とかなるようなものでもないし、数値目標があってどうこうなるようなものでもないという話で見ただんですけど。この後ですよ、予算のお話が肉付けされていって実際それぞれの事業にどういったお金かけて、どういったことが出来るってというのはこれからのことだと思うんですけど、少なくともここにあるのが最低で、もっともっと出来ることはやっていただきたいなと思うし。

この後、年に一度、各年の検証ということであれば確かにこれ、回数ってというのは簡単なんです。要は予算について、例えば1回100万もかかってた回を30万で済む回にしたらそれは3.3回に出来るんですね。そしたら回数で測るって言ったらいかようにでも出来ると思うんですよ。

是非とも今、特に後継者の育成とか次世代の継承っていうのは、本当に大事なことだと思って、そうなってくると本当に今いいお話聞いたなと思うのは、じゃあ、この取組みをして、あくまでも目に見えてるのは3回が6回になりました、6回が9回になりましたんですけど、その中で本当に何かを感じ取って、まさしくあわ文化って

うものを受け止めてくれた若い世代っていうのが、次どういうアクションを起こしたのだからっていうのが、やっぱり本当に大事なことになると思うし。

それで本当に私、人形遣いになりたいあるいは太夫さんになりたい、三味線の方やりたい、あるいは藍を染めたい、藍染をやりたいっていう方達を、どう今の大人達が受け止めて本当に、言葉悪いんですけど、それは僕は教育を否定するわけじゃないですけども、たくさん塾に行って、東京大学行きましょう、京都大学行きましょうでなくて、そうじゃなくって、太夫さんになるのがどれほどすごいことなのかっていうのが本当に伝わる教育になってくれればなあというのを思っています。

そういった意味では最後のところに各主体の役割っていうのがありますけれども、せっかくこれが出来た以上はこれをどう、事務局された県として各種団体に説明をどうしてって、どう実現に結びつけていくのか、それを期待もしてますし、この後私もこの委員を続けさせていただくのであれば、そういった形で検証をしていきたいなと思っております。まずは答申案、おまとめいただきましてありがとうございました。

委員

私、ずっとこれを先ほどから読ませていただいて、私が気になるのはこの19ページの旅行企画、先ほどもあったかと思うんですが、やはり私は徳島の文化が発展していくためにはやはり徳島に足を運んでもらってそれで直に感じてもらって、藍染めや人形浄瑠璃なんかを感じてもらって、それで徳島を好きになってもらって、それが徳島ファンになっていくのだろうなと思うんです。

そのためにはやはり情報発信っていうのが、ずっと言われてることですけども、これをやっぱり充実させてって、先ほどのその映像の効果活用っていうのもあって、さきほど教材に使えるようなものを作ってほしいというふうにおっしゃってましたが、もっと教材ももちろんですけども、いろんなところで気楽に気軽に流せるようなこういった映像を作って、それでやっぱり全国各地それから今となったらそれこそネットで世界配信出来るわけですから、それで徳島に足を運んでくれる人を増やしてってほしいなと思います。

それで先ほど襖からくりの映像があるとおっしゃってましたが、多分もっと徳島県内にいろんな映像が眠っていたり、新たに作ろうとしてる計画があったりすると思いますので、そういったものをどこかで1つにまとめてそれで徳島の魅力が表せるような映像を作っていければ良いんじゃないかなと思います。

マチ★アソビとか、それからこの間米津玄師さんが紅白に出られたということで大塚国際美術館がすごいことになってましたけど、それだけで終わるんでなくて、そこに来た人、そこで徳島に足を運んでくれた人に、もっと文化を知ってもらうような計画があればいいんじゃないかな、企画があればいいんじゃないかなと思います。

例えば、旅行に来て考えてみると、この季節だったら徳島のここに行けばいい、渦潮とかもそうかもしれませんが、そういった全国の人にもっともっと知ってもらえるような発信っていうものをやっていただけたらなと思います。以上です。

委員

初めましてで、このような場で意見を述べさせていただけることを光栄に思います。私このたび、中学校の文化連盟の会長になりましたので、ここへ呼んでいただきました。中学校の校長です。若い世代の育成ということで、担い手育成ということでたくさんのご意見が出ていました。

あの、あわっこ文化大使っていう事業が教育委員会の方で6年程前に出来たときに、その際にも教育委員会にお世話になっていたことがあって、当初の2年間、子供達、県内外に阿波の文化を発信する中学生大使ということで、育成に携わった経験を持っています。今、現在もその頃から関わってくださった先生に書いていただいたあわ文化のテキストを使って中学校では学習もしています。

また、なかなか広がりを見せないなというのを実感として持っています。それは、あわっこ文化大使になったらどんな魅力があるのかっていうところが薄い。最近ではちょっと、最初の頃メディアでも扱っていただく機会が多かったんですが、活動してもなかなか認知されてないようにも思います。

十郎兵衛屋敷で県内外から来られたお客さんに人形浄瑠璃を紹介している子供達は本当に楽しそうだったし、嬉しそうでした。また、鶴林寺道、四国遍路の鶴林寺へ行く遍路道の英語でのマップを作って、徳島大学に来た留学生に遍路道を紹介するっていう活動などを楽しそうにしてました。でも、結局それがなかなか周りに広がっていかないっていうしんどさがあるなあと思っていました。

そういった活動を支えるのは、結局は若い親なんですね。あわっこ文化大使になっても、その活動の場へ送迎する親御さんの理解がなければ広がらないし、本当に先ほどからたくさん文化活動、若い小学生や中学生にしてもらいたいっていう、子供達がやりたいと思うような環境を整え、そしてまたそれを支援する若い親、この世代をターゲットとして巻き込んでいかないとなかなか難しいなあ、ということを感じています。

子供達、少子化の中ですごくいろんな期待を背負っていて、中学校の部活動でも運動部は本当に合同で組まないとサッカーも野球もできないっていうような中学校増えています。そういうスポーツの担い手として、それからプログラミング教育の担い手として、科学の担い手としてって、いろんなことが中学校教育に持ち込まれる中で、文化の魅力っていうのをどんなふうに伝えたらいいのか。

このあわっこ文化大使を育成する文化テキストは、1つの足がかりとしてすごく大事だなと思うので、大切にしながら、これ、みなさんにもっと支えてもらって勉強したらそれがどう繋がっていくのか、そしてどんな喜びがあるのかっていうのをまた各機関から提言していただいて、中学校の方にも広めてもらえたらと思います。

実は昨年、国の文化庁の芸術家派遣事業で藍の館から大きな樽を学校に運んでいただいて、実際に120人、体験してもらいました。くさいくさいって言ってましたけど、布が変化していく様子を目の当たりにして、それで初めて実感として皆さんが言っている藍というのものはこういうふうに染まっていくんだ、そして大切に守っていかないといけないものなんだ、ということも感想として述べてましたから、そういったワークショップは県内各地でどんどんやっていただけたらと思います。以上です。

委員

いつもお世話になっております。今回の審議、答申、まとめていただいた分拝見させていただきます。当初から5つ、4つ、ある程度まとまり持ったところから言葉を紡ぎ出しているという感じはしましたが、帰着してるところに落ち着いたかなという気分はあります。

ただですね、全体を通して1つの何か象徴的なものを、発信をする上では必要であろうとは考えますので、先ほどから出てますキャッチフレーズですが、「未知なる」世界へ！道成る「あわ文化」ですね。これがですね、前回の会議の時に頂いた資料では、未知なる世界へ！というところがひとつの言葉になって、今回のを拝見しますと「未知なる」がカッコで囲まれているということで、わりとキャッチフレーズって視覚的にも重要な要素がありまして、これデザインの世界なんですけど、もしも「未知なる」というのと後の「道成る」というこの2つをかけたいのであれば、これをカッコで両方とも包むべきであろうと考えます。

なので、最初の未知なる世界への「未知なる」をカッコで囲む。そして次の「道成る」をカッコで囲む、ということで。もう「あわ文化」をいちいちカッコで囲む必要はなかろうかと思います。キャッチフレーズっていうのは発信の仕方ということで、1つ提案申し上げます。

発信の内容についてももう1点だけあるんですけど、これはあくまでキャッチフレーズっていうのは聴覚、耳にする言葉、先ほどは視覚的なデザイン的な要素もあるというふうに言いましたが、多くの場合、耳で聴くものでありますから、同時に視覚的に発信する、もうちょっと強いもの、となりますとロゴマークということになります。

やはりこの「未知なる」世界へ！道成る「あわ文化」。これを象徴するようなロゴマークというのをやってみてはいかがでしょうかという、ちょっとデザイン的なところからの、キャッチコピーとかそういった世界から考えますと、これは必要でないかなと考えます。

指摘するのはその点なんですけど、今回ちょっと私、休みを頂きまして、ちょっと出かける所がありまして、そこの例を、今回の内容に即したかどうかわかりませんが、何か手がかりになるのではないかなということで、少しだけお話をさせていただこうと思います。

今回、福島にある須賀川市っていう市があるんですけど、徳島市よりはるかに人口の少ない。実はマイブームというわけではないんですけど、先月わりとネット上で話題になりました、実はこの須賀川市という町はですね、ゴジラ、ウルトラマンで有名な円谷英二さんという方の出身地でありまして、この方のミュージアムがなんと今年出来たということなんです。それも調べていって後でわかった事なんですけど、2019年の1月に出来たと。あれだけ高名な方のミュージアムが今頃出来るのかっていうのにちょっと逆に驚いたっていうのがありまして。

それともう1つ、この町のニュースとしてはですね、町に400メートルぐらいの通りにですね、松明通りっていうのはあるんですけど、そこにその怪獣のモニュメントっていうんですか、オブジェがずっと配置してあるんですね。だから車運転してて、この怪獣、夜とか危なくないかなと思う、ちょっとびっくりするような、ものす

ごいリアルというか、さすが本家大元でありますから造形に関しては完璧だなという感じがしました。

そこでそういうオブジェがあるんですけど、実はこれも、本当に3年、4年前から出来だしたっていうんですね。ゴジラっていうのは1954年に初代が誕生いたしまして、そこから割と世界的にその円谷さんっていうのは有名になられた方なんですけど、その方をもってしても、今頃ですかっていう。60年、65年経ってようやくそういう、町として、町おこしとして使われるようになった。

町おこしの一環としてこういうクリアファイルみたいなものがあるんですけど、これ実は、須賀川の駅ですね、ウルトラマンの故郷である架空の世界ですけど、光の国っていうところでの住民票を発行してるっていうんですね。架空ではあるんですけど、須賀川市と光の国が姉妹都市提携をしたという、そういうストーリー作りですね。これが非常に秀逸だなと思って。これは全国からもネットで申請が出来ます。その住民票を、もう紙切れなんですけど、非常にオリジナリティのあるイラストが入ったものをその駅とあるいは市役所で発行してもらえるとというその流れなんですけど、その流れにのっかって300円で住民票頂いてきました。

そういうふうにちょっと、この物語の作り方、町おこしのやり方っていうんですごく感銘を受けたっていうのが最近の出来事であります。で、もう1点、実はそのついでに東京も寄ってきたんですけど、東京の千代田区の展覧会がありまして、これはちょっと世界的に有名なシド・ミードっていうデザイナーの展覧会なんですけど、非常に盛況だったということで期間が延期されたっていうぐらいのものだったんですね。これはちょっと行かなきゃ行けないなと思って寄ってきました。

実はここは、そのシド・ミードっていうSFの好きな人にとってはものすごい有名な方なんですけど、内容以前にですね、その行われた会場が実は学校なんです。廃校になったところをギャラリーとして活用しているっていうところにちょっと僕は驚きまして。わりと、そういう文化に細かくアンテナを張ってらっしゃる方は知ってるよっていうことを聞きました。学校ですから水道とかですね、教室の間取りとか、らせん状にくるくる回る階段であるとか、そういったものがそのまま生かされているんですね。そういうところでギャラリーとあるいは美術とかワークショップですね、講義も出来るような環境で再利用されてると。

でも千代田区の、23区のだ真ん中でなぜ廃校っていうか、こんだけ人口があるはずだろうにないんだろうと思うと、そんな所で住む人はいませんということで。結局地方で住んでいるから地方に、東京であろうが東京のだ真ん中には誰も人は寄りつかないっていうことになって廃校、廃統合されたということだったらしいです。ということで、学校っていうその誰もが通ってきた懐かしい、共有される記憶というかストーリーですね。それが展覧会以前にそれを味わう前にですね、入ってくるっていうのがすごくインパクトがありました。ということで、この文化を考える上で参考になるのではないかなということで、情報の話をさせていただきました。以上です。

会長

全委員から御意見を頂きました。大きな変更が必要だという御意見はなかったかと

思います。具体的な御提案とか、たくさんいただいたんですけども、この基本計画の答申案そのものについては、文章とかについて、具体的な修正意見があったと思います。

ですから、これをこのまま最終案にするのではなくて、頂いた御意見を反映させて、若干の修正をしたいと思います。で、それには、皆様にもう一度お集まりいただくというのは、ちょっと難しいと思いますので、私に御一任いただければありがたいと思うのですが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし

会長

それでは、そのようにさせていただきます。それでは、議題2について、事務局からなにかございますか。

事務局

今後のスケジュールについて説明

会長

委員の皆様、他になにかございますか。

委員

(なし)

会長

それでは、以上をもちまして議事を終了いたします。議事進行に御協力いただきまして、ありがとうございました。